

浦上川沿いの実家の被災

小 柳 孝 夫 (大村高校)

長崎大水害は私の実家(長崎市本原町37-9, 小柳和夫宅, 浦上警察署裏の浦上川沿い)も直撃を受け, 床上70cmの浸水に見舞われた。私は大村市に居住しているため, 水害当日の状況については, 兄の家族から聞いたものである。

7月23日午後7時頃, 降りしきる雨について, 兄は軽自動車を運転して帰宅し, 車を車庫に入れることができた。しかし兄の長男も同じ頃自家用車で帰宅し, 浦上川が増水して危険を感じたので, 車を山里小学校付近の高台に移動していた。この判断は極めて適切であったと思う。

午後7時20分頃, 玄関が浸水し, 靴が浮きはじめたので階下の畳を二階に運び始めた。6畳2間の畳の内, 8枚まで上げたところで床下より水が噴き上げ, 畳4枚と階下の押入れの下段に置いていた品物はほとんど水に漬かってしまった。水は午後12時迄には徐々に引いたそうである。

とっさの出来事で, 判断が甘かったと反省していた。諫早水害の時にも浦上川はかなり増水したが, 氾濫する程ではなかったし, 「まさか」ということで油断があったようである。

電話器は高いところに取付けていたので, 浸水をまぬがれ, 午後8時迄は外部と通じていたそうであるが, その後まる1日不通となり, 親類との連絡がとれずに困った様である。

当日午後7時のNHKニュースは, 長浦岳で史上2番目の雨量を記録し, 長崎市周辺で水害の恐れがあることを報じており, 浸水はこの直

後だったことになるので, 広報車等で住民に連絡できなかったのだろうか, と対応の遅れが問題点として残る。

大村市でも, 午後5時頃から断続的に土砂降りで, かってない降り方だったので, 諫早水害当時飯盛町で被災した経験があるだけに, 一抹の不安が脳裏をかすめた。ニュースでも中島川の氾濫を報じていたが, 浦上川氾濫を知ったのは翌日のニュースであった。実家には7月24日早朝より, 何回電話しても通じず, やっと連絡がとれたのは午後7時頃であり, そこで被害状況を初めて知ったわけである。

7月25日早朝, 救援道具を積みこみ, 車で西海橋経由で長崎に向ったが, 琴海町付近から渋滞し, 4時間かかってたどりついた。

道路は30cmの土砂で埋まり, 床下の土砂を取り除くのに2日かかった。わずか3, 4時間の増水で土砂がこれ程運搬され, 堆積するのかと驚ろいたが, 堆積した土砂はかなり固くなっていた。軽自動車は流されて, 家から40m離れた露路で材木の下から発見され, 座席まで泥につかっていたが, エンジンは水洗したあとすぐかかったそうである。

台所・風呂等, 生活中枢部がすぐには使えなかったもので, 1週間程親類宅に世話になっている。水害後, 浦上川は川底を掘下げ, 護岸工事も進んでいるが, も少し早く行っておればと悔やまれる。当時の疲労からか, 兄嫁は現在も健康を害している。